



図書館長
山本 淳 ドイツ語学科教授

学びと教育・研究を支える図書館として

図書館は、数多くの本や資料を所蔵している空間であるとともに、日々様々な活動を行っている、ひとつの有機体です。そのあり方も、時代や社会の変化に伴い変わっていきませんが、本学図書館では、学生・教職員、地域のみなさんにとってさらに役立つ存在となるよう、現在以下のポイントに取り組んでいます。

1. 学生の自律学習や教員の教育活動支援のさらなる強化・拡充

図書館ならではのラーニングコモンズ機能、アクティブラーニング支援をさらに強化拡充していきます。各種セミナーの開催、図書館を支援する学生ボランティア組織「BiVSビボス」との協働もその一環です。

2. 研究活動支援と知の生産への貢献

研究活動に必要な情報を確保し、学術情報流通を促進します。

3. コレクションの整備・拡充とナビゲーションの改善

図書・資料コレクションの整備・拡充、ナビゲーションの改善に引き続き努めるとともに、コロナ禍の経験を踏まえ、これまで以上に図書館の電子化を進めます。

4. 他機関・地域との連携と国際化の促進

学外、地域との連携を促進し、さらに図書館の国際対応能力の向上に努めます。

5. 図書館の発信力強化

図書館関連の情報を学内外に発信し、利用促進とともに、学外、地域との連携強化を図ります。目下Twitterでの積極的配信を行っているほか、360°バーチャルツアーの実施計画も進んでいます。

もちろん、図書館に立ち寄るのを日課としたくなるような心地よい空間づくりにも努めます。みなさんぜひ、広々として落ち着いた雰囲気の中で、大きな窓から中庭の緑を眺めながら、本を読んだり、勉強したりしてみませんか？

1年生からキャリアセンターを利用しよう！

大学は多くの学生にとって学びの最終段階であり、4年間の学びを終えると社会に出ていく方がほとんどです。獨協大学で「学問を通じての人間形成」を行ったみなさんが、今度は社会人として力を発揮し、より良い社会づくりに参加することになります。

獨協大学キャリアセンターは仕事探しをお手伝いするだけの場所ではありません。大学で学問に取り組んでいるみなさんが、自分はどうな人なのか分析し、仕事とは何かを理解することを通して、それぞれの進路を考えることができるよう、支援しています。

自己理解を深め、職業観を養うにはある程度の時間が必要です。キャリアセンターでは、就活開始前の1、2年生が自分の将来の進路や生き方について考えることができるような講座を多数実施しています。3、4年生へは、筆記試験講座や応募書類・面接試験への対策など、実践的なアドバイスをを行います。

獨大生にお願いしたいことは、まず真剣に学問に取り組むこと。基礎的な語学力、専門分野の知識、すべてがみなさんの将来に直結します。また、クラブ、サークル、アルバイト、ボランティアなど、この4年間だからこそできることに積極的に取り組んで学生生活を充実させてください。そして1年生のときから気軽にキャリアセンターを訪れてください。私たちは膨大なデータと分析力で、みなさんのキャリア形成を支援します。獨協大学で学びを深めた卒業生たちは、日本中・世界中のあらゆる場所で活躍しており、高い評価を得ています。自信を持って進んでいきましょう。



キャリアセンター所長
岡田 圭子 経済学科教授

獨大生の
みなさん

"メッセージが届いています!"

獨協大学には、キャンパスライフを充実させるための様々なサポートがあります。

みなさんは活用していますか？ みなさんの様々な活動を支援するセクションの長である先生方からメッセージが届いています。

あなたは「世界市民」ですか？

PISAという調査について聞いたことはありますか。OECDが実施する国際的な学習到達度調査です。「日本は数学と科学では世界トップレベル」とか「日本の若者の読解力が落ちている」などと、その結果が大きく報道されます。前回の実施は2018年、日本から6,000人ほどの高校1年生が参加したので、皆さんの中にこの試験を受けたという人もいるかもしれません。

2018年には「読解」「数学」「科学的リテラシー」という3分野に加えて、新たな分野「グローバル・コンピテンス」が導入されました。異なった地域が複雑に関係し合いながら、急激に変化しているのが21世紀の世界です。その変化を支え、その変化の恩恵を受けて生きていくために必要な能力が「グローバル・コンピテンス」です。OECDはこの能力を、1) 地域、世界、異文化の問題に取り組む力、2) 他者の視点を理解し尊重する力、3) 文化の違いを超えて関わり合う力、4) 社会の幸福と持続可能な発展のために行動する力と定義しています。

2018年の「グローバル・コンピテンス」の調査では、試験に加えアンケートも行われました。その項目のひとつは、「私は自分を世界市民だと感じている (I think of myself as a citizen of the world)」という文について、a) 強くそう思う、b) ややそう思う、c) あまり思わない、d) ぜんぜん思わない、から一つ選ぶというものです。世界が直面する課題を深く理解し、他者や異文化への開かれた態度を持つ。そのような「世界市民」としての自信を、みなさんが獨協大学で強めていってくれることを大いに期待しています。まずその一歩として国際交流センターに足を踏み入れてみてください。



国際交流センター所長
前沢 浩子 英語学科教授

大学生生活を豊かなものにしよう

獨協大学の校友会はすべての学生が会員となる全学的な組織です。日々の具体的な活動は、校友会本部のもと、文化会本部・体育会本部及び愛好会本部に所属する団体・サークル、大学祭である雄飛祭の実行委員会及び卒業アルバム編集委員会によって学生主導で実施されており、団体・サークルの活動をサポートする各本部や校友会の財務面の健全性を担保する会計監査団も学生によって組織・運営されています。ワンキャンパスに8,000人以上の学生が通学するため、同好の士を募りやすいという本学の特性を生かし、スポーツ、ダンス、音楽、文化・文芸等から、国際交流やボランティア活動等に至る幅広い領域で100有余もの団体・サークルが活動しています。また、遠距離通学やアルバイト等で時間が制約されがちな学生も参加可能な昼休みを中心に活動する団体など、活動時間・場所にも多様性が見られます。

みなさんは、コロナ禍で好きなことが自由にできないという生活を2年以上強いられてきたと思います。この機会にやってみたかったことを実行に移してみませんか？ 入りたい団体・サークルがなければ新設することも可能です。授業・試験対策とアルバイトだけの生活では4年間がもったいない！ 仲間との触れ合いが大学生活をより豊かなものとし、卒業後の人生を味わい深いものにするはず。校友会総務部は教職員一丸となって校友会活動の活性化に尽力する構えでありますので、何かあったら気軽に相談してください。



校友会総務部長
吉川 信将 法律学科教授